

緑の太陽

夕暮れの海辺を散歩していた老人がふと海を見るとオレンジ色のいびつな太陽がまさに水平線上に沈みつつあった。目を細めた次の瞬間、緑に輝くつかの間の落日が浮かび、錯覚かなと目をこらすと間もなく緑の太陽の姿が消えもとの静寂な浜辺に戻っていた。

緑の太陽は錯覚ではない。日の出や日没の時に水平線上にある太陽が「瞬、長くとも十数秒のあいだ緑色に輝く緑閃光、グリーンフラッシュ」と呼ばれているもので、上に行くほど薄くなる空気がレンズの役割をして造りだしている光学現象に他ならない。

沈みつつある太陽はすでに沈んでいる。空気のレンズで弓なりに曲げられた赤味がかった光が目が届いて、あたかも水平線の上に浮いて見える。赤より緑の光のほう曲げられやすく、最後の一瞬に緑色が残って目届くと緑の太陽となる。澄んだ空気のきわめて条件のよい状態でのみ女神が微笑み空気レンズの演出によって見ることができる。

筆者もグリーンフラッシュに一度だけ出会ったことがある。海に沈む丸い太陽の三分の一くらいが沈んだ頃に上の部分が確かに緑色に変わっていた。あわてシャッターをきったが現像すみのスライドには露出オーバーで平凡な白い太陽しか写っていないかった。

冷い海を西に望むカリフォルニアの西海岸でよく現われ、日本では北海道の知床や西海岸が期待でき、能登半島あたりが穴場かもしれない。

グリーンフラッシュを見ると「実実の愛に目覚める」との古い言い伝えがあるそうだが、一方でまたグリーンはシェイクスピアの悲劇の中で「緑の目をした嫉妬」「嫉妬とは緑色をした怪物」というように嫉妬の色として描かれている。緑色の目のようなグリーンフラッシュを見た恋人たちは「真実の愛に目覚め、そして嫉妬に悩まされているのではなからうか。」